
太陽のひだまり

坂本 グミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

太陽のひだまり

【Nコード】

N2322D

【作者名】

坂本 グミ

【あらすじ】

この、物語は、野球部のマネージャー愛が、いつも、部活をさばってばかりいる、本山太陽のことがちょっとだけ、きになります。でも、親友の由佳が太陽のことが好きなのです。どうするの？愛？究極の恋愛ストーリー

1話　太陽の光

私は、こんなに、悲しい思い出はなかった。

そのときの話をしようと思います。

それは、1年前のこと

私の名前は、愛。

中学2年生。

野球部のマネージャー

私は、友達の。由佳と、マネをやっている。

一人、由佳と、いつも、部活の時間になると話に出てくるやつがいる

それは、いつも部活をさぼって、監督からも目をつけられてる、

本山　太陽だ。

いつも、由佳の口から、太陽の話がでてる。

なんでだろう？

私は、由佳に聞いた。

「由佳？なんで、いつつも部活になると、太陽の話がでてくるの？」

と、私は、聞いた。すると、由佳は、、、、。

「愛には関係ないっ！」

といって、向こうに行ってしまった。

もしかしての、もしかして？

あの可能性が考えられる。

何の可能性だって？

恋愛だよ。

もしかしたら、由佳は太陽に恋したのかも、しれない。

まーどうでもいいやつ。

でも、由佳の恋は応援しなきゃ！

私は、もう一度、由佳に聞いた。

「さっきから、ごめん。」

太陽のこと、好きでしょ？」

私は、言った。

すると、由佳は、顔を真っ赤にしていった。

「わるい？」

といった。

私は、

「んん。由佳の恋を応援したいと思って

聞いただけっ。」

といったら、由佳は、

「それならいいけど、。だれにも言わないでね、。。」

といって、部活の方に戻っていった。別にいいのに、。好きな人
ぐらい、。。

まっ。私は、いないからいいけど。

「太陽っ！」

グラウンドのはしのほうから、女の声がした。

私は、

「今部活中です。部外者は入らないでください。」

と、厳しくその女に向かっていった。

そしたら、、、、。その女が、、、。

「うちさあゝ。太陽の彼女でえゝ。

部活姿みにきただけなのにいゝ。」

いたんだ！あの本山 太陽に？

私は、その女に向かって、、、。

「本当に、太陽の彼女なの？」

って聞いた。

その女は、。

「ん？今日告つたあからゝ

返事待ち！」

それって、彼女っていうんかい！

私は、その女をひきかえし、

太陽にそのことを話そうとして太陽を呼んだ。

「本山 太陽！」

私は、太陽の名前を叫んだ。

そしたら、太陽が

「なんですか？マネージャー」

といって、こっちに走ってきた。

私は、太陽のことをあまり知らない。

知っていることは、私より、いつこした。

中学１年生。

「本山君。さつき、君に告白した女の子がきてたよ」

と、いやみな顔で言った。

すると、太陽は、。。。

「ほつといていいですよ！あの女カワイクもないし、。

だったら、由佳マネージャーのほうがましですよ。」

といって、部活に戻っていった。

まって、今、太陽の口から、由佳の名前が、。

これは、由佳におしえなきゃ！！

私は、この情報をはやく伝えたい気持ちを持って、

由佳の場所へ行った。

「由佳！すごい情報！」

といって、由佳に話しかけた。

由佳は、、、。

「なになに？なんの情報？」

といってきたので、私は、。

ひそひそ話で

「太陽のこと、、、。」

といった。

由佳は、、、。

「まぢで????おしえておしえて!!」

といったので、おしえてあげた。

「あのね、太陽の口から、由佳の名前がでたの！」

と言ったら、由佳は

「ちょーうれしー!!!!愛ありがとう！」

といって、幸せ気分で部活に戻った。

もうすぐ、おわりの時間かあ。

由佳のために、多雨用に、プロフィールかいてもらお

「本山君」

私は、もう一度、彼の名前を呼んだ。

「またっすか？愛マネージャー」

と、ため息をついて、きた。

私は

「プロフィール書いて！」

明日締め切り。」

と言って、部活を終わりにした。

帰り由佳が、

「今日、幸せだったあ。」

と言っていた。

でもね、太陽に告白した女が部活のところに来たことを由佳に話したら、

「うそあ。太陽はあたしがとるう」

と言って、それぞれの家へ帰った。

家に帰ったら、由佳とメールのやり取りをした。
私は

「なんで、太陽のこと好きになったの？」

とうつて、由佳にメールした。

由佳は、。

「ん？なんか、部活でみてて、汗ながしてるの見て？」

かつこいいいゝと思って。

でも、年下なんだよねえゝ。」

と打ってきた。

私は、

「そーなんだあゝ」

あたし、由佳のこと、応援してるよっ」

と言って、メールのやり取りを終わりにした。

でも、ゝゝゝゝ。

あんなやつのがいいんだか、。

噂によると、バレンタイン

ほとんどの女子から、チョコもらったとか。、、、、。

すっ。

そんな相手に、由佳は勝てるの？

そりゃあ、由佳は、カワイイよ。

でも、、。そんなバレンタインのチョコを

ほとんどの、女子にもらうような相手に勝てるの？

私は、心配した。

もし、由佳の恋がかなわなかったら、、。

私は、そんなことをおもいながら、ねた。

次の日

私は、太陽のことを、考えながら、

部活に向かった。

1話『太陽の光』（後書き）

どうでしたか？

更新おそくなると思いますが、よろしくお願いします！

2話「太陽のプロフィール」(前書き)

主人公の、愛は、部活で太陽という男の子を知ります。

親友の由佳は、いつのまにか

太陽のことが好きになってたみたい。

私は、すきではないから

応援します。

でも？事件発覚します！

緊迫の第2話！

2話　太陽のプロフィール

私は、心配なきもちにつつまれ、部活にむかった。

ん？

私は、変な光景を目にした。

なぜか、野球部のグラウンドに入る

よこのモンに、1年せいたちが、、、。

しかも女子だらけ、、、。

もしかして、、、。

私は、いそいで、中に入った

やっぱり、、、。

私の予想は的中した。

本山　太陽　めあてだ、。
まって、、、。

由佳は？

ちよつと、心配だ、、、。

「由佳」

私は、叫んだ。

「由佳！大丈夫？」

由佳は、1年生たちにふまれ、ボロボロになっていた。

足なんか、もうキズだらけ。
そしたら、太陽が、

「僕のせいで。由佳マネージャー大丈夫ですか？」

と、太陽が面倒をみてくれた。

由佳は、万年の笑みをうかべている。

私は、そっとしておいた。
そしたら、太陽が走ってきた

「あの、。愛マネージャー。僕のこと、

本山じゃなくて、太陽でいいですから。

あと、これ、」

と、なにかをわたし、かえっていった。

これは、。昨日渡したのプロフィールだ、。

覚えててくれたんだ、。

私は、由佳に太陽のプロフィーを見せた。

由佳は、。

「あー！太陽君って好きな人いるんだあ」
と、言っていた。

私は、

「もしかしたら、由佳かもよ、？」
と、言ったら、由佳は、。

「その可能性があればいいけど、。」

と、言った。

私は

「告白してみたら！」

と、由佳に言った。

由佳は

「うん。今日の、部活にする。」

と、言って、保健室に行った。
するんかい！！

うちも、好きな人ぐらいつくろっかなあ。

つまんないね。

好きな人いないと。

太陽のプロフィーみてみよつと。
好きな食べ物、、、りんご。

好きなタイプ、、、優しい人。

だつてさあゝ。

優しい人啊ゝ・

たしかに、由佳優しいモンね。

これだったら、あたしが太陽と由佳両思いにさせてやるつ。
私は、太陽をよんだ。

「太陽君」。

と、言ったら、太陽がきた。

「なんですか？愛マネージャー」

と、聞いたので、私は、

「あのさ、、、。由佳のこと好き？」

と聞いたら、太陽は、

「ん？まあまあですね。」

と、言ったので、私は、きいた。

「じゃあ、だれが好きなの？」

と。

太陽は、

「秘密です。」

と言って、部活の方へ言った。
んゝ。太陽の好きな人かあゝ。

なんか、調べる部とかないのかなあゝ。

なんかさ、「恋愛リサーチ部」

みたいな。

あつたら、由佳のために、調べてあげたいな。

私は、生徒会に、言ってみた。

私は、生徒会長の、舞と、友達だから。

「舞ゝ。ちょっと、質問があつてきたんだけどあゝ。」

と、いったら、舞が出てきた。

「どうしたの？愛。」

舞がきいてきたから、こんな部がないかと、質問をした

「あのさ、好きな人を調査してくれる部ってないの？」

と、舞にきいたら、

「ん？あるよ」

といった。

あるんかい！

私は、その部室に行った。

トントン

私は、部室の戸をたたいた。

なんか、すごい不気味なの。

しばらくしてから、女ん人が出てきた。

「ようこそ！好きな人調査隊へ！」

と、カワイイ女の人が出てきた。

私は、部室の中へ入った。

「だれの好きな人を調査しましょうかあ。」

と、聞かれたので、私は、

「本山 太陽。」

と、答えた。部員の女は、

「理由をおこたえください

答えていた頂かなければ、調査はしません。」

と、部員の女が言ったので、私は、

「友達が、本山 太陽のことがすきで、。」

調べてあげたいなと思ひまして。」

といったら、部員の女が、

「あなたが、好きなわけじゃないんですね？」

と、聞かれたので私は、

「はい。そんな確立ありません。」

と言つて、調査をしてもらった。

すると、奥のほうから、一台のパソコンが出てきた。
なんだろう？と思ひながら、私は、部員の女に質問した。

「そのパソコンは？」

と聞いたら部員の女は、

「これに、全校の好きな人がのつてる、スーパーパソコンです！」

と、言ったので、早速調べてもらった。

と、とつぜん部員の女が、

「ただでやるわけには、いかないの、で、。」

いまのうちに、お財布をもってきては？

ちなみに、料金は、200円です。」

と、言ったので、私は、お財布から、200円をとってきた。

「はい これで、調査してくれるんでしょう？」

と、言ったら、

「はい。責任をもって、調査します。

1時間ほど、お待ちくださいませ。」

といったので、私は、部室を見せてもらった。

部室のドアが、古いだけで、

中は、ピンクの雑貨などがおいてあって、

カワイイ。

（1時間後）

太陽の好きな人がでてきた。

「これが、調査した、プリントです。」

由佳だよね。ぜったい。。。

「!？」

私は、ビックリして、そのプリントを投げ捨てた。

だって、そのプリントには、、、。

由佳じゃなくて、

あたしの名前が載ってたんだもん。

私は部員の女に聞いた。

「この調査間違ってますよね？」

と、聞いたら、

「私の調査にまちがいはありませんっ。」

と言って、部室を、おいだされた。
太陽の好きな人って、。

あたしだったの？

これを由佳が知ったら、。。。

やばいつ。

でも、由佳、今日告白するって、。。。

やばいよ。

私は、緊張感をつのらせ、放課後の部活に出発した。

2話「太陽のプロフィール」(後書き)

どうでした？

ドキワクな小説をかいていきたいので、

どうぞよろしくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2322d/>

太陽のひだまり

2011年1月19日03時00分発行